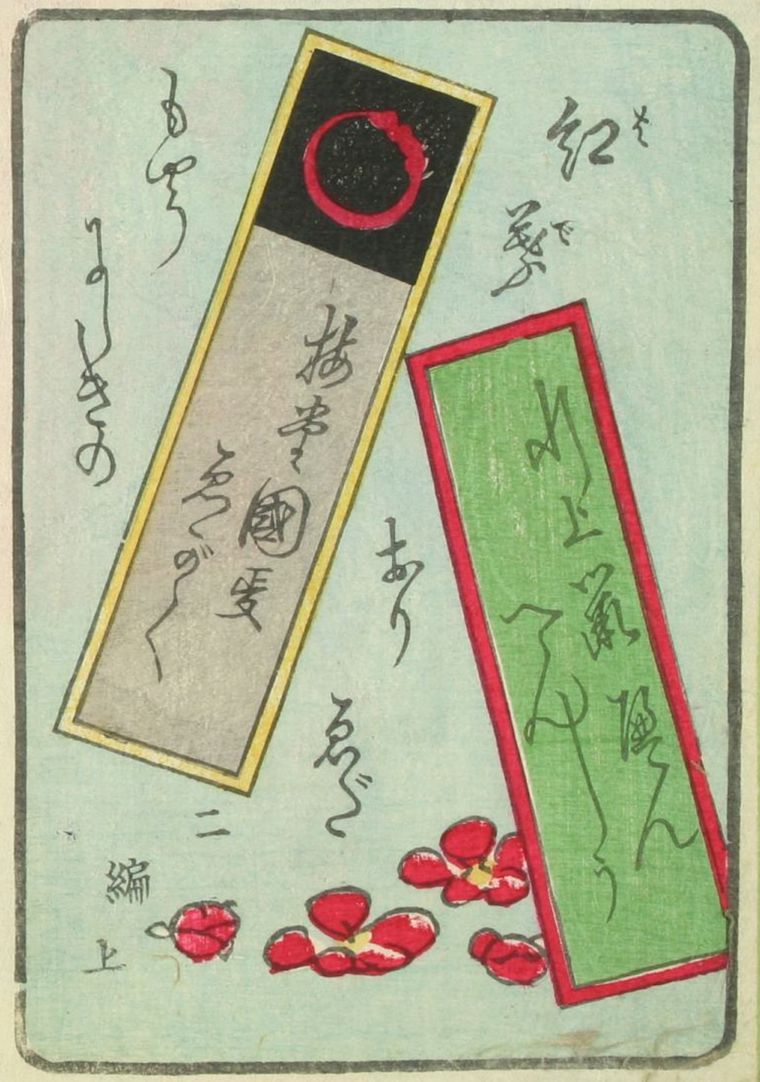
上

A533
2七

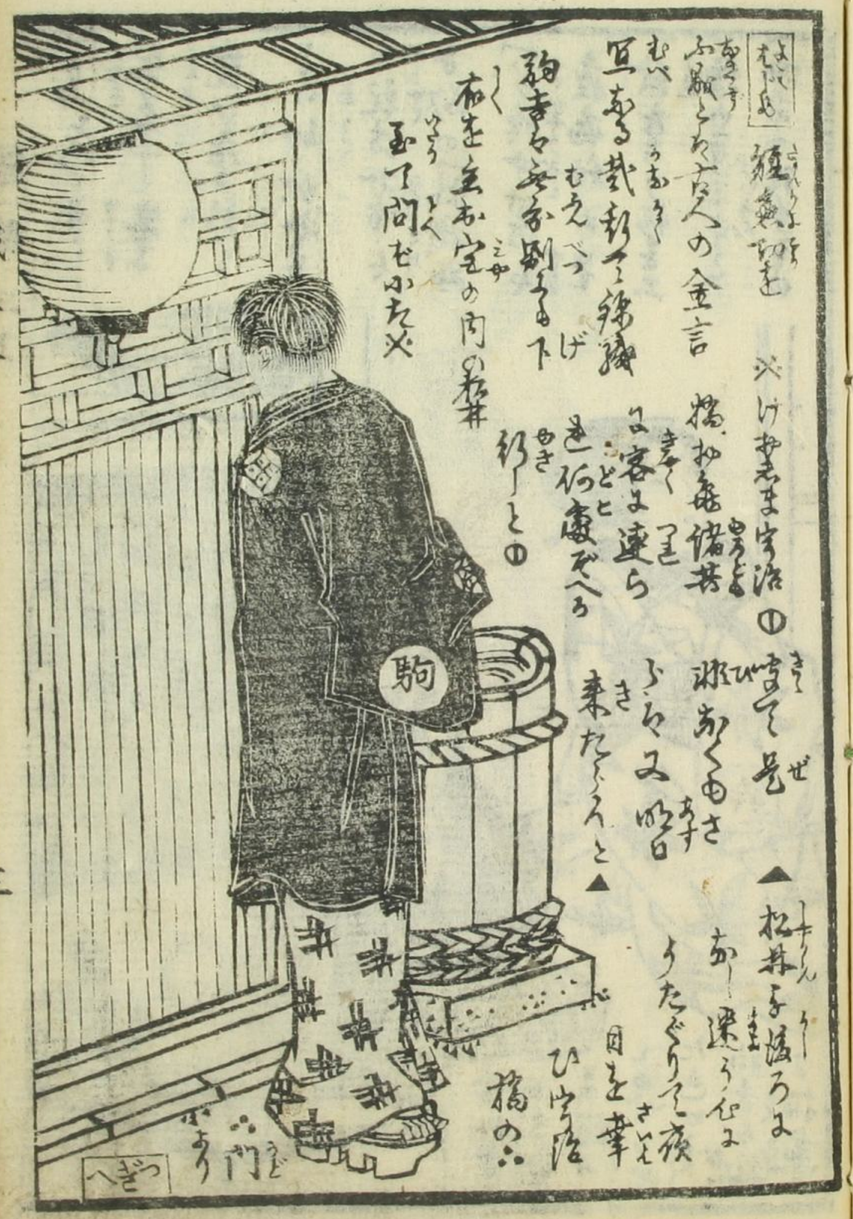


<48-8337>

車太郎
品玉銀次
ウテ治ちゃ
ちゃうえん

伊右衛門伴
伊三郎

錦織駒吉


駒

そつとおくれ
現在中と客を
窺ひ居る釣く
もの知り顔おかめ
の親方和市々
てゝぢく
手取の一杯機嫌
ノウ絵中は江戸
やぐらがこ
疫病神を生
紙たろう行を工
夫
雑めるでまと
おかめ陸奥
言せる悪
たまロ対
約束を物
を据菓
①和市
かきくれ
ふ
言せる悪
たまロ対
約束を物
を据菓

花の恋いへざるし
仍さ島田の思無
七日情中ゞ湖く
成と凡へ江戸日
も暮の恋あ
ーきのまー
生物で欲
い母を抱ふと
元々中々中
狗の紙ぬと
表まめ吹
ぞもも知ぬ①
る傳ふ
這入を和市
ヒックリ
ぬ恋
ぬ恋
愛め
事
八ヤ島
田きん紙
和市今
を
八反

つぎさ を殺て居る
最中笠めし童を
殺すまへのたろう
シタガ家へ来る
たをとりまア表
色地抑おぢ 紙工
袂あり 雑へ玉撥
て家へ上つて抑
茶でも飲あと福
よ絶たる雑言よ
紙職人出るよ
絶対おあもんと

言葉が出
したのだ
つぎ内上屋の時
を出ろう

赤葉の耶
ヤを出る
ヤ風よ悪く

恩ひしゴ言めの家
る後接濃タア
あとあるぶあると狗
をきさ古ろう「イヤ抑袋
今り余程
飲たと△餘り悪口を
足へる言ぬぶ能と
シカシ行ぶ恥しめ
名根う知ら
らかつぶ糸撫を程ド
だうぶ構こ向て一大ふ
ぬぶ他人よ△抑あるる

内の大変の抜人
抑の為を知ぶ
るそさの
かー＋

抑敬の貝を
ーてつぶ
さらぶ訳の
ぶ藤だう
らいろぞや
抑ぶ方と
らだと思つて
待て居と郷ご

次へ

つぎさ
伊

銀

つぎ
元
ぎ
人心母
実よ
り強よ今者々
黄泉
父母の恩
金銀財宝を
伊
狼
駒

亡母の
精月の侍夜よ
ご欲の
汚名
を
本若き
怨

つゞき

男を武人の
車夫ぶ中ま原位
こへ慶振立コレサ若へ
のの抑茶そ
蓋でも
見て居
さのう
粮所の
ふ山山
までは
迄武分
中三分
のたーさ

又さ人ぶ紙次
兄の云通り
つ切て切ての拵
き一と言
ぎて二と近
ら※

※ちゝ取兄の武人
引言さ直後の云
あの所々五両ろ
あでも出ら其形
の四百何
と左衛
じゆア
ゆ中せ
人のこ
ねどーう
きくーう
橋々金ま

武人ぶ言
坂押
つまの
上等
車が
仇で
近
来る
ものの
とせ
ち
へて

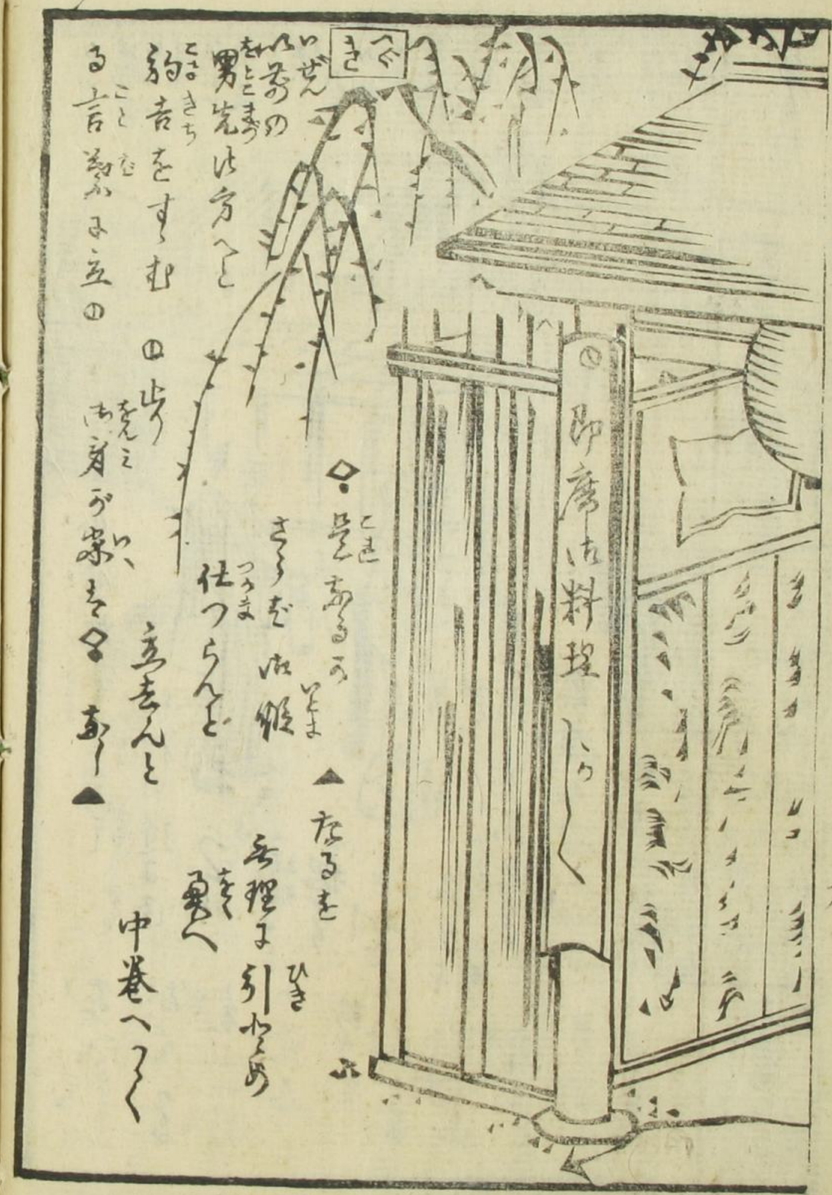
こん和純
人ま鬼
中甫
と迫
理を
言ぶ

桐人さ武人ぶ言
系統と
ぶも
情中
を

めんこ
たさん
で仕
事と

次八

つきこ
ひ物り拾ひ
長屋おさを
駒
伊



官許 朝鮮名法 牛肉丸

官許 たんせきの業 天恭丸

書肆 地本錦繪 問屋 日本橋區横山町三丁目二番地 金松堂 辻岡文助

紅葉摸様錦織枝

二編 大尾

川上鼠邉著

梅堂國政畫

よく注め

いざ知れ汚者

[illegible]を知る間[illegible]父と母

き老人のお来りおとや

らお接拶ー私くし

[illegible]ハ尚家の[illegible]人使

[illegible]と申さる老又

[illegible]ハ[illegible]まて使三

[illegible]と呼四又年前より

[illegible]町岩城仲や へ奉公

に参ーて[illegible]する[illegible]今日ハ南家の者が待[illegible]般今朝[illegible]を参ー

まーくで店を仕[illegible]て[illegible]を乞尚家へ参る途中[illegible]車まやめた[illegible]

[illegible]命[illegible]

[illegible]ハ

[illegible]ハ[illegible]れ

の[illegible]般づ

[illegible]めさ

[illegible]

べきと云人の言葉より綿織ハイヤ伺ひ老人たち
事情繁くハ甚だく怒猫はつる殊ほぞん
ぐらいの所弛老ほ和歌美ほ
痛り休ると言葉つぐ
打ほもり主人ハ言つと
溜息つきモシ見ず良人ハ敵
敵内さんと沙伺おのこと
所産りきーやう
と問れ
て孫
吉ふ寡不勝

▲を立る打拍晴友ほ
て婚国
の此家来
蓋を仙
奴と言る
もの弱収来り
ほまちずほ角
五のりし屋八国
漆の線ぬつ
屋の書とふり伺ふ
足ほく着くるれバ伺

「ぬ切ほ
生鶏田ほおせと
此老人ほ笠ーて我名とさきを
小見た、八添生涙内の内ほ此老人が
苦倍おぬい此方の此年ほハ面白こと
祢と多なまひ素似し日弱力を
猫ほ狭でその
ほ内仮の
付合ほそ芳系ー
寄玉屋い領城ほくと云
添く神深て通内祝と寡とほ死別此是
ある時ハ化素金ー賣トセ業とふし弱き悔へ

とハ
を弱浅こ寺
ちふあのよ
ーみほ捨
ても玉ま
矮ほ附て
の幸ひ今
日素君ハ子
供も恵草戎寺へ
弟年ほ水ー
脇首尾お敬ーセ
待和城セ後ヤ

まへと玉志の方ゑ
エの有としら祢を連ま錦
ハくまーおわり先ハ指鍋まて打とくも
合ーしうハと見より謝礼ま記載ハる浅
蔵も書く掛張てまこと標先種
おぐり良人のお
新玉しくと立
人ま仰と
とハおろち
武二ツ故ま
この極松又

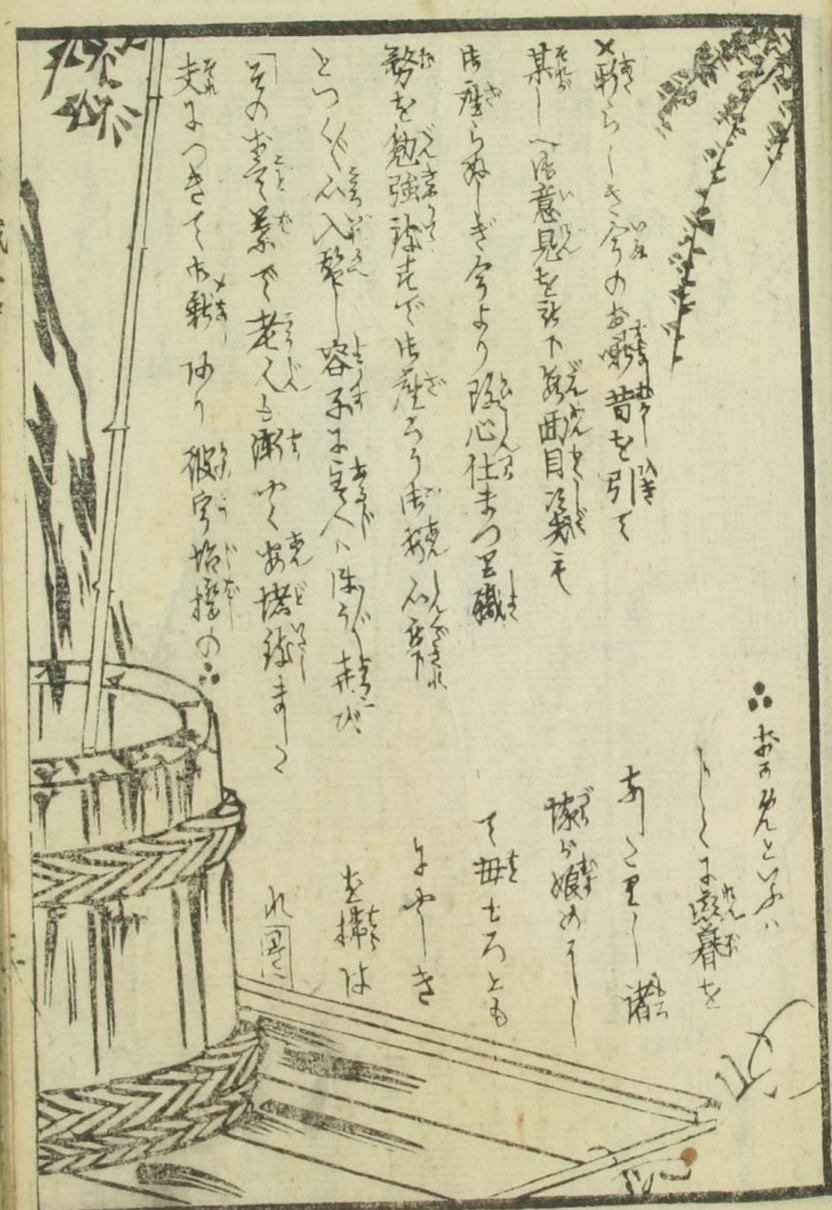
似り
嫌風情
よ殺せお
気の毒ホ
と思ふ
てハ居ま
しかり
を背負ふ駄吉
ハんに拵ェき
つら拵ェを尚家の
老人ハ某しゞ四才の情ム

❶ホーむでも命ー嫌人ハ
此老人で有たりしゝ歌
名上ハ和名を行
吸んゝイヤ待暫
父ハ冠ェ冠で
孫を失ホハ
母ハ実ホき
死をとゞられ是又悔も色ふけ
兎職の上まくで
賤しき矢場の小女
よ大くのうを人上ー嫌を持人ー

次へ

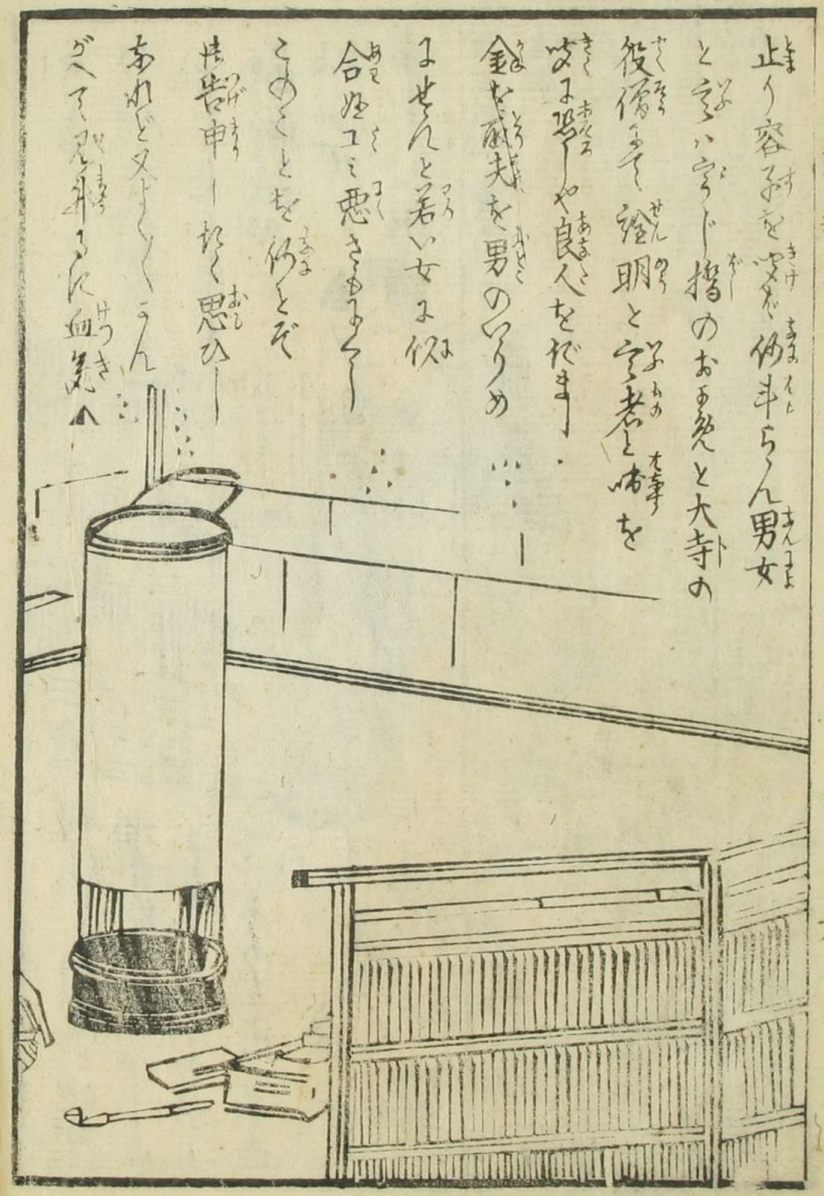
此老田此しくの二人并と
侍三ヶ所の両人ま駅ち支ホ用
ひ当已ホ後後ま来ー ホれ
を看客とゝ一れ察ー ゑへ

浪花
舟



死をあー　たるよ
手親々の気質をバ強
なるおら死であるおれ
バ面バ佛の容姿をんの
底ハ如何で
能のうん殊
八日の月蔭て赤
羽根よりの使へり
山内の髪蔭のそ仮や男女の
さくく声をとハあーよ来うーよ
田と言名の耳よ入思ひ末蔭よ立

止り客をまねく仮斗らん男女
と言ハゞうじ搗のおまゑと大寺の
役僧まで絵明と学者と称を
なる聖や良人をたま
金を商夫を男のうめ
ませんと若い女よ仮
合ゆゑ悪さもまゝ
このことを仏とぞ
共皆申ー好く思ひー
あれど又よくくうん
ぐべて見れる血気



▲盗の後先見ず
迷くゝ座るを
あるまゝぬおやじが
兎や角と告げをまゝ
ことてしちり按ぶき
てみへりおもち
ひのおきのみあり
ずのへつてお亀ホ
が関志の者や思ひ
るも殊会ふうと
そのまゝよおもひ

止まりはしらぬうち
ぜに今背中めが
命をお救くだされ
し良人の馬方
かりる雞後みる
ヨーのびづろう
んがおれめを思ふ
老婆ふあしくふ
馬方下
ふといと
ねんごろよ

小味

◐矢けんをまはよ
父度とよ鉢巻
ハこのつ殺るきろ
ハ怒り死きお
の免が振舞ら
形だとへ
×が愚
ヨが
身
ざわき
とられ
×

上
馬方
×ーるるせよ只
のてだも相解ー
ちふーをきへーせーるる

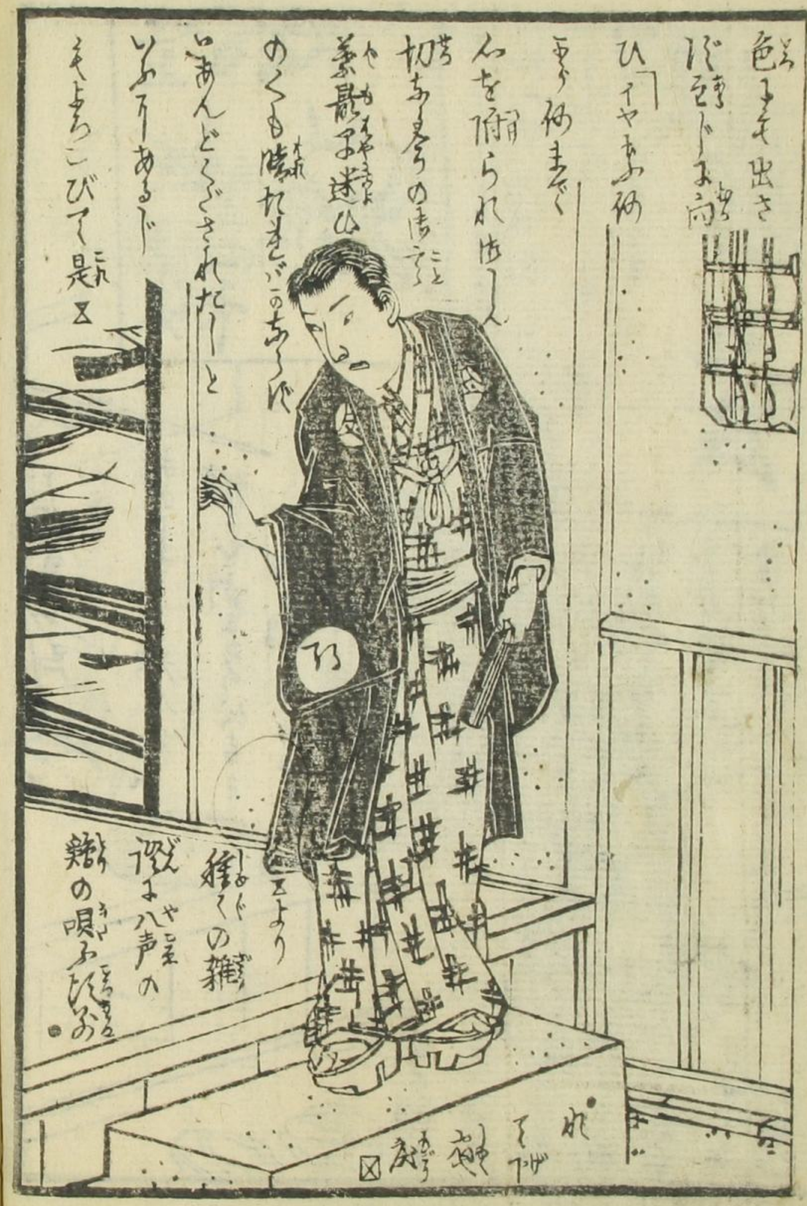
鉢巻五話

◐の俵恨ー
亀いのでこ

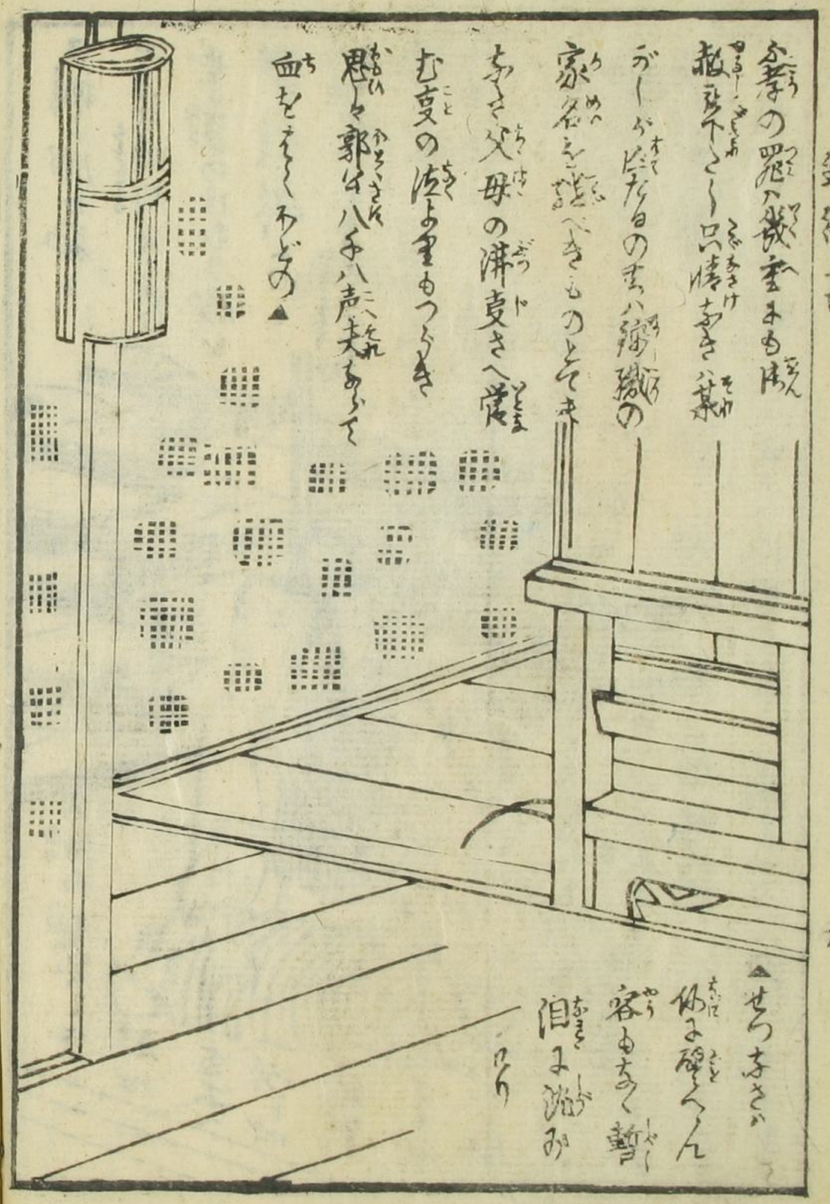
◐の俵お
く座き
ろと忽
まち殺
ー読起れ
んせーしが

つぎへ

色まを出さ
ぬをとゝ向
ひ「イヤもう仮
ゑり仮まぐ
ムを附られ出し人
切ゐ多の情こと
業最ゑ迷ひ
のくも情ひまぶのあ
いあんどくぐされたーと
いゐてあるゝ
えもちこびて是又



図挑ゑ附と森も
やうに燒灯火くゝ
せる莨のけむり腦を
掛て寄る限ゑ心も
狂ひて夜やうゝ起金蔓
鬼の住ゐ所ゑ八父の
みつゝ天殿ゑ梓頭ゑし
たゝ小熊ゑ志津三郎
義氏の名代ゑ弥藏八抑
載き鞠打鞠つくゝとゝ詠めこゝ
ゑきめて行道ゑ金き父と母との位牌ゑ
び仕まつらん 図人 鬼ゑ

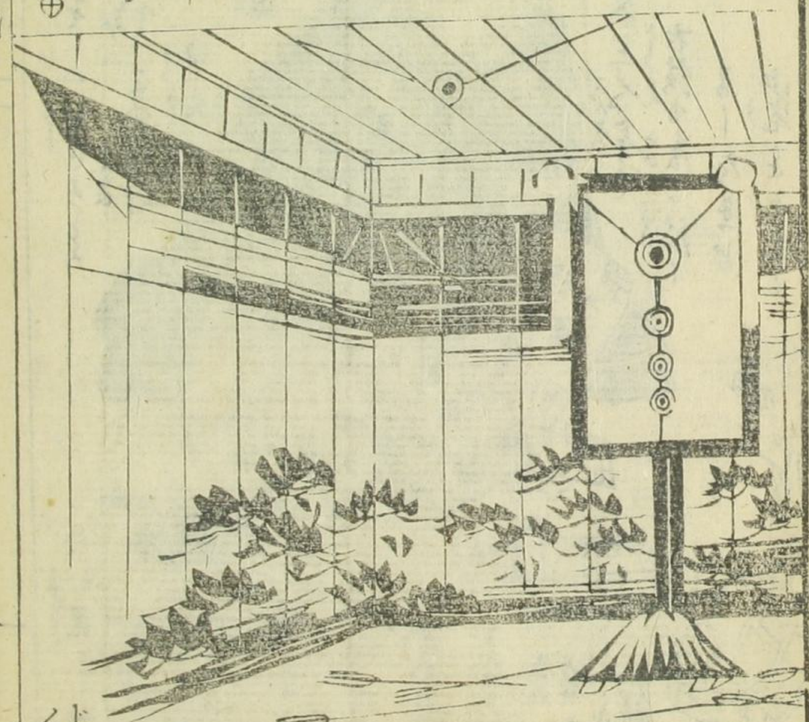


銅版開化玉篇　全
開化女用文　全
近世紀聞　三十六巻　増補大尾　國史畧字引　全
日本小史　七編近出版　次編近刻　銅版日本史類玉篇　和本仕立　洋本仕立
明治節用集　全　義烈天回百首　全
漢語用文　いろは字引　全　金松百人一首　全
曹補算法大成　全　倭百人一首　全
雅俗日用文　全　二冊袋入五編ヨリ十編讀切之處ヲ合本厚表紙掛ケ美本仕立十壱番出版
開化作文　三体用文　全

書肆　東京横山町三丁目
地本錦繪　問屋　金松堂　辻岡文助

下

つゞき　吉祥は
錦織約吉の
朝そぐきより
起あぶ湯浴し
あらゝ身を
清め者めを人
を迎く峰入を
ひろ手分も
新つゝの通り
母の精月命
日毎仏斗も
供養をせん㊐



㊐刻後
を新まむ
きき錦織
が弾指の
言葉まを
人ら喜び
自ら言
下牌と
ま猛ぶ
くを恩

つぎ 弔ふ心ぞ △錦さるところ

…中段※

…

寺へ おさえ 佛集の 余の透 しんぜし 数稿にて あるど 主人を殺し その手身へわたちは

※三人寄て 長病の度々殺し ましたまへど 此尾きをまて

合 心実しやかに言ける事より 心の入替し錦 識が是迄の悪事も 実と思ふ尾きさう

…

…まつける詩 …寂り …

まつけさる 宗治楷 おさめに 咲掛し まも壱 うちまつけの席へ※ あつまり せかい

伴てくる人 娘しく 言葉を揃へ… 二人の… …ん縁し▲

…実は…

□その…

次へ

つき
夫を酔う苦よ
せーあらば
の夜遊びを
△父母が
池

つき

つぎ　三人ら　⊕あろうと嫁へ嫁の六ち寸を取　小十分あるを
白ま喜び又　丑　亀めの　高ひ一寸運
⊕ゆ金を　弥助×　高ひ一酒
引出さん　高ひ小
と言葉
をつこ針
を隠しうらべ　⊕三人ら
よ亀四を　客ま紅ぐを
あすまを　を
又笑しを　
を家を雲暗
了徐し中裏
ひるまん　脇の光

進　職田
と言らひ
むる線
とし布め
おぐ
きみ
ちん
と言

ら四方ま祭り　定めし　紙糸巻を作り作
ちうと知恵をと
の〳〵四人均しく祈
祝を立物ら見
で見世の制と　知ら裏
主潔く　掘る
芝山岡　樹々
の　清ら来青き
青山の×
毎ふせしら
ものと焼きる
を言仕へ　つぎ八

ちく
焼き原者の
戦ま
四め
横死を
思ひ通て
ちくぐろ泊ま
物ふさぐを　⊕
掘ケ池　秀
山谷の邸内を
青大地の
の婦人を
値ぶんぷん
俗の
落と

つゞき
今よりあなたの弟子ーとなりまして
師匠を四人の者
十二時の徒ちうしと
水を飲く
物語く
近く
来ーて

彼方此方
の藻戸を
茶を
告る
ちーの
茶へ
お茶屋
の後てつ人
引て人
ち仙淋ーく
次へ

つゞき

江の島
絵馬
あい極よ
後ゆ文られ
ぜ庭らんと言
ま亀四の絵馬
ち赤茶あ
時藤屋の主術
極よ猫お撫
三人を

懐へ其よ
居ゝこ
せ又

又表の方へ廻ぬ
拵手を身を構
よ居直りて
一如ゆにあうめ
とらいこのちれ
そ青は世人連
素りー の法ん
仔猫を
つぎに の
三人
其

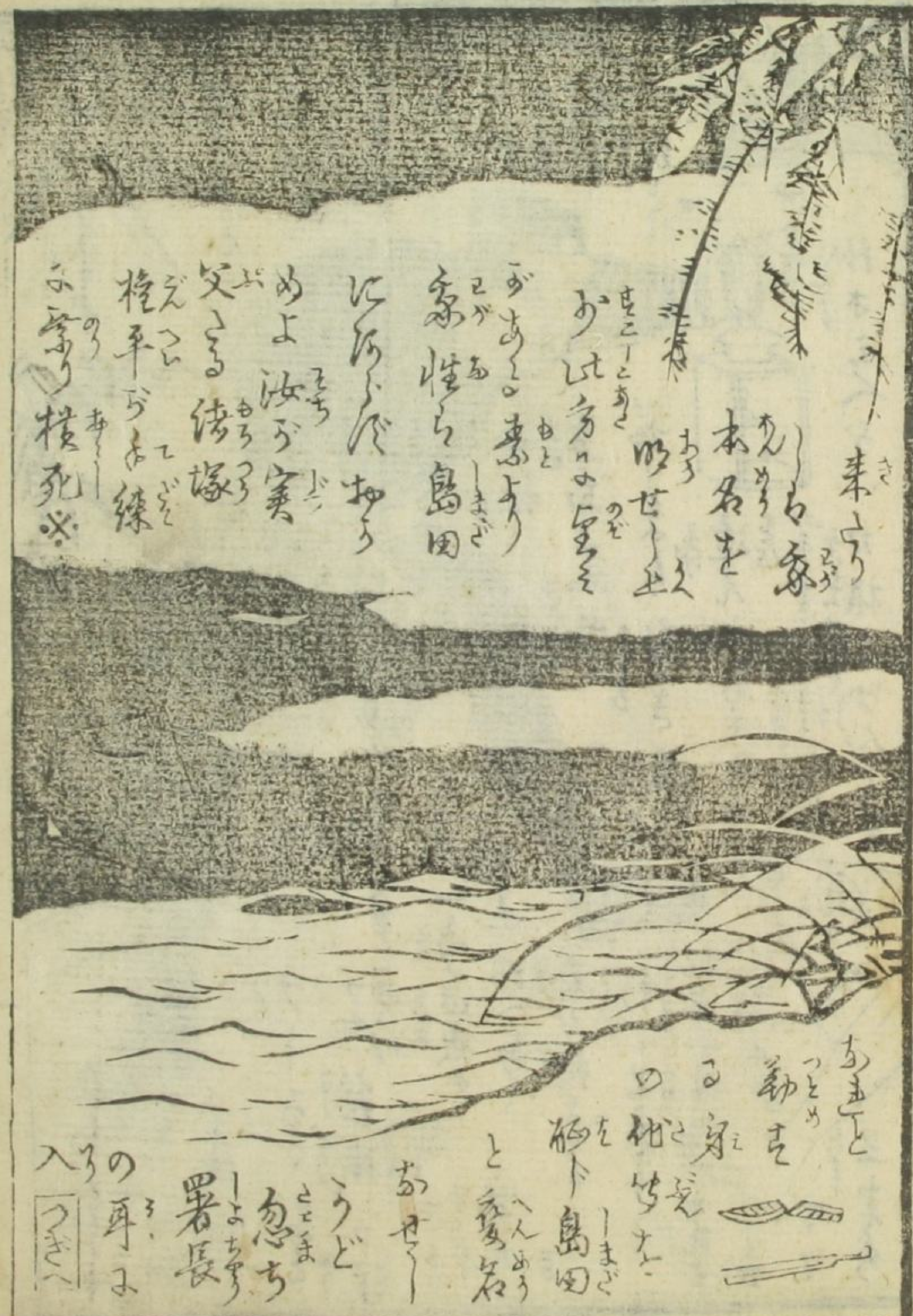
よ心を静め耳を
澄まして能く
ね物法身
ホ々青時
以も迷ふ心
を見きをのこと
種々よいろ
金をこの吉め径
時ふまい
時と云隠蓑※

※猫を
よ逃す
糸の
こ
ふす

老婆と
汁り根も
あきるまて某
よ狐原古
※足を
ぬう世体よく
あして遠ざ常と
せーのこ。うふまさ
金四又

つゞき

つづき
其より家来を
語らひ金
奪せしめん
其ことゝて
知つたる
撃ま
味く
こ
汝ら
手練の
裏を引
返し追引かし
※さとげ
しら織
そのかげ実
の
新羅の福吉
の


来ら
家
本名を
明せし上
おのれ方の望を
おのれ家より
家性ら島田
にふりて
めよ汝が実
父なる縁
権平が縁
子なり横死※
あまとと
勤る身
の此ちなた
を卑下島田
と変名
あかせし
うど
忽ち
署長
の耳に
入る
つぎへ

つぎ

つぎへ

朝鮮
官許
名法
牛肉丸

たんせきの業
官許
天恭丸

書肆
地本
錦繪問屋
日本橋區横山町三丁目二番地
金松堂 辻岡文助

010190514000